

本誌の編集委員として最後のあとがきを書くことになりました。

医療における臨床検査の本質を語るのに、「医療の質は、臨床検査の質に依存する」という言葉があります。臨床検査の質が高ければ、これを用いて行う医療の質も高くなる。というわけです。臨床は患者さんに直接かわることから、医学におけるアートとしての役割であるとして、臨床検査はまさしくサイエンスとしての役割になります。例えば臨床化学検査では、可能な限り化学量論的(stoichiometric)に扱われるように測定方法を組み立て、かつ正確な測定結果になるようにします。そして患者さんの悩みを少しでも解決できるように臨床検査を通して問題解決の成果を患者さんに還元することです。

古い話になりますが、1986年10月オーストリアのグラーツ市で開催されましたIFCCのセンサーワーキンググループによる第8回国際シンポジウム(グラーツ会議)では、簡便・迅速に測定ができるイオン選択電極法(ISE法)をいかにしたら日常検査法にできるのか、各国での検討結果を協議しました。ISE法の標準化の国際会議です。日本からは私が中心になってまとめあげた正確さを基盤とした測定体系(accuracy based measurement system)を組み立てて、基準法(definitive method: Naはイオン交換分離重量法, KとClは同位体希釈質量分析法)を用いて、性状を規定した血清にNa, K, Clの濃度値を決定した血清標準物質(serum reference material)を用いてISE法を校正することを提案しました。

実はこの会議が私にとって初めての海外での国際会議への参加でした。今から24年前のこと、臨床検査の世界では全く常識以前の内容であったことから、少なくとも国内では猛攻撃を受けました。しかし、グラーツ会議では、先行のヨーロッパグループによるNa, Kは蛍光光度法, Clは電量滴定法で行くことに對して、「これでは誤差が大きくて基準にはならない」と強い異議を唱えていたシモン先生(バリノマイシン電極を発案し、臨床検査へISE法を導入)は、われわれの提案には、「これなら認める」と賛同を得ました。これは以後の心の支えになりました。

化学量論的に実試料系の標準を設定する。この実試料標準物質が、臨床検査の基準になるということです。ですから分析化学や標準の研究の領域では大いに賞賛を受けました。今でこそこの考え方は、臨床検査では常識になりました。

常識でない時代にいずれ常識になることをやることは、大変な勇気・努力・根気がいります。以後今日まで臨床検査用の実試料標準物質の設定作業にかかわってきました。“The last but not works”(これで終わり、でもまだ仕事があります)。長い間ありがとうございました。

(桑 克彦)

病気のはなし

胸腺腫 ————— 廣川 誠

技術講座

ホルモンの測定リーズ・3

甲状腺・副甲状腺系:1

甲状腺刺激ホルモン(TSH)の測定 — 青野悠久子

臨床生理検査シリーズ・9

超音波検査の原理・検査法・検査時の注意点

————— 西田 睦

発作性夜間血色素性尿症(PNH)の検査 — 中熊秀喜

オビニオン

コスト意識の向上—在庫管理システム導入で

————— 田口隆由

疾患と検査値の推移

高尿酸血症 ————— 谷口敦夫, 他

ワンポイントアドバイス

適正輸血—臨床へのアドバイス ————— 牧野茂義

Laboratory Practice

免疫・血清:オカルトHBV感染 ————— 飯沼一茂

一般:髄液検査の実際—前編 ————— 三村邦裕

生化学:低カルボキシル化オステオカルシン

(ucOC)測定法 ————— 加藤典子, 他

生理:測定条件による血圧の変動 ————— 桑島 巖

診療支援:ファルマコゲノミクスへの検査室の関与

—研究室から検査室へ ————— 中谷 中, 他

臨床医からの質問に答える

薬物血中濃度測定の採血時期 ————— 大森 栄

目指せ!一般検査の精度向上/ラボクイズ/
トピックス/他

ラボクイズ正解者

第37巻3号(2009年3月号)

花田妙子(函館市)/小濱郁美(青森市)/石井達也(仙台市)/深澤加寿子(白河市)/熊谷加奈子(福島県伊達郡)/大塩奈美(古河市)/山口剛(木更津市)/栗田佳子(さいたま市)/雨宮三枝子(板橋区)/池田文雄(板橋区)/重泉英子(横浜市)/片桐智美(長岡市)/石田睦子(小矢部市)/赤羽貴行(安曇野市)/多城恵(中野市)/丸山千栄子(松本市)/一柳富久美(岐阜市)/榊間利政(岐阜市)/林久美子(鳥取市)/齋藤久美子(府中市)/東城恵美(徳島県三好郡)/坂本文恵(中津市)

●編集委員

菅野 治重

(編集主幹)

伊瀬 恵子

桑 克彦

曾根 伸治

高木 康

手島 伸一

永江 学

矢富 裕

(五十音順)

検査と技術

2009年5月1日発行(毎月1回1日発行)

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%)

年ぎめ予約購読料 19,450円(送料弊社負担・増刊号を含む13冊)

(MedicalFinder パーソナルオプション付 25,300円)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

☎113-8719

東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通(03)3817-5713

ファクシミリ (03)3815-7802/(03)3815-7982

E-mail kensa@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kensa/

販売部直通

(03)3817-5659

振替口座

00170-9-96693

印刷

(株)アイワード (011)241-9341

広告申込

(株)東 広 社 (03)3409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。

医学書院ホームページ(インターネット)はhttp://www.igaku-shoin.co.jpです。

(担当 山本・小藤・能藤)